

ディーラーの独り言（2018年1月19日）

◆本日の予想レンジ

ドル円 110.50～111.80

豪ドル円 88.30～89.10

昨日のニューヨーク市場では、米国の暫定予算可決を巡る与野党の攻防を注視する展開となった。序盤、共和党が政府機関閉鎖への備えをしているとされ、政府機関の閉鎖に対する警戒感による短期筋からの調整があった。これを受けドル円は110円69銭まで下落。ロシアゲート絡みでバノン前主席戦略官・上級顧問が事情聴取に応じるとの報道も、押し下げ要因となったようだ。その後、下院では暫定予算を可決するに十分な賛成票を得たとの報道が伝わると、ドルの買い戻しが強まり、再び111円台を回復した。暫定予算の期限に関しては、下院での可決の可能性は高いが、上院は民主党が暫定予算案阻止のための票数確保との報道もあり、現時点では流動的だ。期限は今日までとなるが、結果が確定するまで注意が必要だろう。一方、好調な米国株式は昨日も取引開始直後に史上最高値を更新した。ただ、さすがに5営業日連続の史上最高値更新とあって利益確定の売りが出たようで、終値では97ドル安となった。短期反発を狙ってロングに傾けたドル円だが、昨日は結局111円48銭までで、上値の重さを感じた。基本的には押し目買い方針で変わりはないが、暫定予算問題が決着するまでは方向感は定まらないだろう。おそらく111円ちょうどを中心に上下50銭といったところだろう。ドル円以外で注目したいのが豪ドルだ。昨日、12月の雇用統計が発表され、失業率は悪化したが雇用者数は予想を上回ったことで、全体的には労働市場の改善が見られ、豪州経済の堅調さが示された。また中国の第4四半期GDPが6.8%と予想を上回り、2017年で見ると成長率の伸びが7年ぶりとなったことも、豪ドルをサポートする材料だ。88円50銭割れ水準があれば買いたい。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。